一方、ヨーロッパの天然ガス相場は、米国産 LNG の代替輸入や備蓄、暖冬の助けもあり、ピーク時(昨年夏頃)から大きく下落しました。インフレやコスト増を折り込んだ値上げ(便乗値上げ)には一定のブレーキが働くと期待しますが、今のところ 2023 年南半球産の球根価格は提示されていません。

【2022 年オランダ産と 2023 年南半球産をセットで考える】

2022 年 8 月 9 日付情勢報告でご紹介の通り、2022 年オランダ産のオリエンタル OT の販売球生産面積は前年比 105%で 116.5Ha 増加し、(肥大不足の 2021 年産の逆で)全般に肥大が良く、世界へ輸出される球数は増加する可能性があります。アジア諸国の旧正月向けがどの程度充足されたかなど、南半球産の需要見込みと適正な価格形成には十分な検討が必要と考えています。
(ＬＡの面積は前年比 112%で、収穫時に中南米の需要を満たしたと言われます)

尚、昨年、球根生産者は好調な販売でムードが良く、種球の収穫結果も良かったため、2023 年オランダ産の生産面積は増加が見込まれます。

③ 商流を集約させてコスト上昇を抑える

約 7200 万球輸入されるオランダ産に比べ、南半球産は 1900 万球と少なく、球根生産者から日本の切花生産者までの商流が分散すると荷物がまとまりません。小規模な輸入はコストや効率が悪化し、入荷スケジュールにも影響します。
既に南半球の球根生産者は、輸出会社を１本化している所が多く、日本向けには、バルディビア⇒ザボー社、サザンバルブ⇒ボス社、バンザンテン⇒バンザンテン自社、バッカー⇒オニングス社＋バンザンテン社が主なラインになっています。

輸出会社から日本の輸入会社への販売も同様の傾向で、
「球根生産者－輸出会社－輸入会社⇒切花生産者」の集約化が進んでいます。
取扱数量や自社施設の有無などによる輸入・貯蔵のコスト差は年々大きくなってきましたが、特に前記②の難しい環境となった 2022 年南半球産はそれが顕著に現れたと感じます。2023 年南半球産のご計画に際し、今一度、前年産の球根単価、冷凍賃、その他手数料等の違いをご確認いただきたいと思います。

厳しい経営環境下ではございますが、弊社は皆様のお役に立てる存在となるべく努力して参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

◇試験ハウスで、2022 年南半球産が開花してきています

国内でも数少ないＣＨ・ＮＺ産のほとんどの品種を展示栽培している試験ハウスです。ボリューム感・リン付など生育データや品種特性をご確認いただけます。

皆様の個別の戦略に応じて、弊社営業がご案内させて頂きますので、お気軽にお越しください。2023 年産も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上